

第39回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

■小学校5年生の部 最優秀賞

トムとハックに憧れて
弟子屈小学校 芝田 洸太郎君



ぼくは学校がきらいだ。理由は、先生がきらいなわけでも、友達もきらいなわけでもない。ただ、決まった時間じつと席について座っているのがきらいなのだ。でも、体育の時間だけは別だ。なぜなら、体を動かすことができるからだ。
僕が読んだ本は、そんな自分と似た少年、トムとハックがくりひろげる大冒険の物語である。

この本は、読書が苦手なぼくに姉が、「洸太郎でもこれなら読める！」とすすめてくれたことがきっかけで読んだ本だ。

トムとハックは、自分たちで作ったいかだを使って、ミシシッピ川を中心に、羽成島に冒険に出た。家族にも秘密にして、学校を何日かさぼったトムとハック。村の皆は二人を探すのに大騒ぎになっていった。それにしても、いかだ作りや火おこしなど、学校では習わないことを、トムとハックはどうやって身に付けたのだろうか。これは、ぼくにとって、テストで百点をとることよりもすごいことのように思える。

二人の冒険の中で、特に心に残ったことがある。それは、悪物インジャンショ

ーとの戦いだ。インジャンショーが人を殺すところを見てしまったトムとハック。それを口にするれば狙われるかもしれない。しかし、トムは裁判でインジャンショーの人殺しについて、勇気をだして話したのだ。今僕には、トムのような勇気はない。けれど、いつかトムのような勇気を出して行動できる人間になりたいと思う。

その後逃げ出したインジャンショーだったが、最後、保安官から逃れようと崖から飛び降り命を落してしまった。ぼくは、インジャンショーの最後を読んでいて、とてもドキドキした。しかし、きつとトムとハックの方がもっとドキドキした。だろつ。

トムとハックは、インジャンショーのかくしていた宝を見つけた大金持ちになった。そして、ハックは学校には行かず、宿も決めずに自由に暮らしていた。しかし、ダラスさんの養子になってしまったことで、学校に通わなければならなくなってしまった。この時のハックの悲しみは、ぼくにもわかる。きつと、夏休みが終わり、新学期が始まる日と同じような気持ちだろつ。

子どもは学校に行く運命にある。だから、ぼくもこの運命を受け入れて学校に行かなければならない。

ただ、学校で教わることの出来ない冒険もこれから色々してみたい。そして、いつかトムとハックも行ったあのミシシッピ川へ行ってみたい。そして、川で泳いで遊んだり、魚を釣って食べたり

してみたい。
ミシシッピ川はアメリカにある。そのアメリカに行くには英語も勉強しなければならぬ。だからぼくは、今日も学校へ行く。

書名『トム・ソーヤーの冒険』
マーク・トウェイン 著

(寸評)「ぼくは学校がきらいだ。」という書き出しから、読み手を引きつける文章になっていました。主人公のトムとハックの行動と自分の日常の思いを重ね合わせて感想が書かれていて、本の面白さが伝わってきました。主人公の気持ちを想像しつつ、自分の気持ちとの比較がいくつも書かれていたり、本を読んだ「だからぼくは、今日も学校に行く。」など自分の生き方に関わる考えが書かれていたりしたことがよかったです。



■小学校6年生の部 最優秀賞

獣の奏者
弟子屈小学校 西端 愛香さん



もし自分のお母さんがいなくなっ
てしまったらっ
て、考えたことは
ありますか？そし
て自分の目の前で
いなくなってしまうたら、あなたなら何を考えますか？

この本の主人公の十歳の少女エリンは、お母さんとの二人暮らしです。母のソロンは、ものすごく凶暴な生き物である鬩蛇の世話をしています。ある日その鬩蛇がいっせいに死んでしまい、その罪に問われて捕らえられてしまう母を見てしまったエリンは、母ソロンを助けに行こうと心に決めました。しかし、エリンは母ソロンを助けることはできませんでした。

私がこの本を読んで感動したところは、母ソロンの一言です。「エリン、お母さんがこれからすること、決してまねしてはいけませんよ。お母さんは大罪を犯すのだから。」私はこの言葉を読んで、なぜ母ソロンはこの言葉をエリンに伝えたのだらう。そして、大罪とは何だらうと思いました。

更に本の続きを読んでいくうちに、エリンの生き方や考え方が大好きになりました。エリンの、苦しんで心が痛くて

も、いつも前を向いて進んでいく生き方が大好きです。そしてエリンの、相手に自分の思っていることや考えていることを全て素直に話すことができることも大好きです。

私はこの本を一ページ、一ページ、読み進んでいく度に感動しました。そして、この本を読んでいく中で、親の大切さを改めて感じることができました。

私はこの本を読み終えて、昔の自分と比べて今の自分は変わったと思います。昔の私は学校で嫌なことがあっても、話しませんでした。親に怒られても、なぜ自分が怒られなくちゃいけないのか、自分のどこが悪いのか、全く考えたことがありませんでした。

私は親のことを、何回も嫌になっ
たことがあります。みなさんもそんな経験ありませんか？でも、小学校四年生の三学期頃に、お母さんから、「お母さんはね、愛香のことが嫌だから怒っている訳じゃないんだよ。どうでも良かったら、悪いことをしても怒らないよ。愛香のことが一番大事で、一番好きだから怒るんだよ。」と言われました。

それを聞いたとき、自分は何てことを考えていたんだろうと思ひ、なんだか泣きたい気持ちになりました。

私はその時から心に決めたことが二つあります。一つ目は、自分が悪いことをしたときは素直に謝ること。二つ目は、自分が大人になったとき、親に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えること。私は、これからも親への感謝の気持ち

を忘れずに、エリンのように前向きにそして素直な自分でいられるように頑張ります。

書名『獣の奏者』
上橋菜穂子 著

(寸評)この本と出会ってよかった！と心から感動している西端さんの姿が文章から読み取ることができました。主人公のエリンから学んだことはどんなことなのか、それをこれから自分の生活にどう生かしていきたいのかというところが、高学年らしい文章で書き表してあります。これからもたくさん面白い本と出会って、さらに「書く力」を磨いてください。

そのほかの最優秀作品についても、来月以降順次紹介していきます。
※児童の学年は、コンクールが行われた平成25年度当時のものです。